

以下、本日の記者会見で発表した文書をお送りします。

今後の活動について（9月29日の理事会で決定した方針）

安倍総理の突然の辞任、福田政権の誕生により、拉致問題の停滞が懸念されている。確かに拉致問題を政権の最重要課題と位置づけていた安倍総理と、9.17小泉訪朝当時の官房長官として、拉致問題の棚上げに向けて動いた福田新総理とでは期待感が異なるのは当然である。

しかし、私たちは安倍政権当時から「建設的緊張関係」を維持し、政権に対しては是々非々の態度を貫いてきた。この点は今後も変わるものではない。また、9.17当事の拉致問題棚上げの動きは、それ自体はもちろん許されるものではないが、「拉致を棚上げにする」という決意（？）があったからこそ、結果的には北朝鮮当局を欺き、金正日に拉致を認めさせ、5人を帰国させて北朝鮮に戻さないということが可能になったのも事実である。福田政権のもと、再度北朝鮮を手玉に取り、拉致問題の実質的進展を勝ち取ってもらうことを切に期待する次第である。

安倍政権時代、総理の熱意に期待し、安堵してしまったことは逆に救出運動の停滞を招いたと言える。この反省に立ち、私たちはいかなる政権であっても拉致問題への取り組みの後退がないような世論を作っていかなければならない。調査会としてはこれまでの調査活動に加え今後さらに次のような活動に取り組んでいく。

1、国内・国外の北朝鮮人権問題関連 NGO との連携

核問題で米中露及び韓国が北朝鮮に対し際限ない譲歩をしているが、これに対抗するには北朝鮮の人権問題を積極的に取り上げ、北朝鮮包囲網を作り、また国際世論を盛り上げる努力が必要である。そのため北朝鮮帰国者、脱北者、政治犯収容所などの人権問題をとり扱う民間団体と積極的に連携する。5月の理事会で決定した北朝鮮の体制転換をめざす活動の一環でもある。とりあえず、可能な団体と連携の上バルーンプロジェクトを拡大実施していく。

2、人権査察の実施

北朝鮮に対して以下の人権査察の要求をしていく。

- (1)北朝鮮において拉致事件にかかわる関係者との面会の要求、金正日政治軍事大学など日本人拉致被害者がいたとの情報のある地域の査察。
- (2)他団体と連携して国際人権査察団を組織し、拉致関連地域及び政治犯収容所などの査察。
- (3)（安全が確保されるとの前提で）特定失踪者家族も含めた現地の調査。

以上について、日本政府に北朝鮮側へ要求するよう求める。特に(2)については北朝鮮

に要求するよう国際機関などにも要請を行う。また、現時点での北朝鮮に対する援助は独裁体制を利するだけの「非人道的援助」であり反対だが、水害被災者等一般民衆に炊き出しなどの直接支援ができるならば、北朝鮮に直接人を入れる活動の一環として「戦略的人道支援」のボランティアを募ることも検討する。

以上

矢倉富康さんと慎範アナウンサー、3月15日撮影の写真に関わる問題について

特定失踪者問題調査会 代表 荒木和博

調査会では7月9日の記者会見で入手した写真（訪朝した日本人と北朝鮮側の人間が3月15日に平壤・高麗ホテルロビーで写した集合写真）の中に写っていた男性について、特定失踪者矢倉富康さんの可能性が高いとして発表した。その後この人物が朝鮮中央放送で対日放送を担当する慎範というアナウンサーであるとの情報を得、その放送の音声の分析を東京大学先端科学技術研究センター客員研究員である村岡輝雄博士に依頼し、「矢倉さんのお父さんと慎範アナウンサーの声には共通点があり、似ている」との結果を8月21日に記者会見を行い発表した。

その後、調査会事務所に「写真の人物は自分の兄慎範で、昭和47年に帰国した在日朝鮮人である」と語る人物が知人と共に訪れた。その場では写真等もなく判断しかねたが、後に帰国者慎範氏の北朝鮮での写真及び帰国前の写真を預かり、橋本正次東京歯大教授にも検討していただいた結果、「3月15日の写真の人物と比較した場合、矢倉富康さんと帰国者慎範氏はどちらも非常によく似ているが、二人を比較すれば鼻の下のホクロの有無、加齢変化の程度（眉の濃など）を考慮すると、帰国者の慎範氏の方がより似ている」との判断に達した。

したがって、「写真の人物は矢倉富康さんに極めてよく似た別人である可能性が高い」ということになる。もとより写真による分析は可能性の多寡の問題であり、会見の場において私が断定的な表現をしたことで関係各方面にご迷惑をおかけした点についてはお詫び申しあげたい。

一方、調査会では矢倉富康さんの父である三夫さんと、三夫さんの弟さん（富康さんの叔父）お二人の声を録音し、前回同様村岡博士に分析を依頼した。その結果、「三人に差はあるが、どれも慎範アナウンサーと似た声のグループに入るので親族関係がある可能性は存在する。ただし、世の中には50億以上の人があり、当然似た声の人もいるから断定することはできない」との分析がなされた。また、アクセント等について言語学の専門家である佐藤亮一・前東京女子大教授にも分析を依頼したところ、断定はできないものの慎範アナウンサーの言葉は東京の人間のものでない可能性があり、中国地方ないし九州地方の人の特徴に近い、とのコメントをいただいた。ちなみに帰国者の慎範氏は東京出身であ

る。

また、一部の報道には合成写真の可能性も提起されていた。これは警察などの判断によるものとされる。北朝鮮はこの写真を当時の安倍政権中枢へのルートを作るために使おうとしたふしがあり、ならば単なる帰国者の写真を合成して流すということは考えられない。

以上を整理するとこの問題には次の5人の登場人物が存在することになる。

- 1、3月15日の写真で一番左に写っている人物
- 2、在日朝鮮人愼範氏
- 3、「チョソンの声」で放送している愼範アナウンサー
- 4、矢倉富康さん
- 5、(写真が合成であった場合)本来写真のその場所に立っていた人物

このうち、今回1と2が同一人である可能性が高くなり、3と4が同一人である可能性が存在することが確認されたわけだが、そうすると1と4が「極めて良く似た別人」だった場合も、何らかの作為が存在する可能性が出てくることになる。写真を出した北朝鮮側の意図も依然不明である。

本件については以上のようにまだ不明の部分が多いが、今後も調査会としては周辺状況を含めて調査を行い、適時発表していく予定である。また、真実を根本的に明らかにする最善の方法は調査会の役員が平壤に行き、愼範氏及びその関係者と面談して事情を聴取し、写真撮影や音声収録をしてくるしかない。すでに9月11日の日朝国交正常化作業部会の報告会の折、その主旨は政府側に伝えてあるが、再度正式に依頼し、北朝鮮当局に要請してもらおうよう伝える予定である。なお、矢倉さん自身についてはこの写真の問題の結論と関係なく拉致の可能性が高いと考えており、実際1000番台リストに載せたのもこの写真の情報を入手する前である。したがって刑事告発は本件を一旦切り離して10月31日に行う予定である。

以上

北朝鮮における日本人の目撃情報について

1982年7月、タイのバンコックにおいて、10名のタイ人女性が、「山田」そして「小林」という日本人名を名乗るいずれも40歳代の男性で、北朝鮮職員と思われる複数の人物により、騙されて北朝鮮に拉致された。その女性たちは、ピョンヤンの普通江ホテルの近くにあるレストラン「安山館(もしくは、安山閣、鞍山館、鞍山閣とも記述される)」において、同レストラン内のクラブのホステスとして従事させられた。その7か月後の1983年2月頃までに、全員無事にタイに帰国した。

今回、タイにおいて調査を進めた過程で、そのタイ人女性10人のうちの2人と面会が

可能となり、彼らから北朝鮮における新たな日本人の目撃証言が得られた。その概要は次のようなものである。

「私たちがタイのバンコックから騙されて北朝鮮に連れていかれた時、最初の二ヶ月間は海岸沿いにある招待所に軟禁された。そこで、毎日午前中の二時間は日本語の教育を受けた。日本語以外の授業はなかった。日本語の他に、日本の文化や風習も教えてくれた。日本語などを教えてくれたのは40歳から50歳ぐらいの中年の女性で、顔つきも日本人のようだった。身長は150センチ台で、色白、丸顔で、髪の毛が短かった。非常に日本語がうまく、日本語も漢字やひらがなをスラスラと黒板に書いていたので、日本人であると思う。彼女は『結婚して20歳ぐらいの子ども（性別不明）がいる』と言っていた。性格は優しい方で、キャンディなどをもらったことを覚えている。名前は記憶がない」

この面会の際、特定失踪者の写真を見せたところ、「木村かほるさんか、荒井セツさんに似た感じである」との証言を得たが、これ以上の確証を得られるものではなかった。

しかしながら、当該の日本語を教えた女性が、日本語のみならず、日本の文化や風習も含めて知識を持っており、しかも、特定失踪者の女性と類似しているとの証言からすれば、彼女たちの教育係として、拉致された日本人女性が従事させられていた可能性は否定できないと認識するものである。

「しおかぜの集い」について

1 概要

特定失踪者ご家族と調査会は12月16日（日）、東京と大阪で『しおかぜの集い』と題した集会を開催する。（大阪会場については、大阪ブルーリボンの会等と共同で開催）これは政府認定の拉致被害者以外の拉致の可能性のある失踪者（以下『特定失踪者』と呼称）の現状を広く一般の方々にも認識していただき、特定失踪者の調査等にも政府の対応も含め、拉致問題全体の解決のために世論喚起を図る目的で開催するものである。

2 細部

（1） 東京会場

ア 場所 : 『陸上自衛隊・広報センター』（東京都練馬区大泉学園町）

イ 時間 : 10:00～17:00

ウ 内容

（ア）支援団体等によるパネルディスカッション

（イ）大阪会場と二元中継方式による会場内全員参加型のディスカッション

（ウ）特定失踪者写真展及び同会場での特定失踪者ご家族と一般見学者による交流会

（エ）ミニ・コンサート（調整中）

(2) 大阪会場

ア 場所 : 『大阪府立 青少年会館』
(大阪市 中央区 森ノ宮 中央 2 - 1 3 - 3 3)

イ 時間 : 1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

ウ 内容 : 東京会場と二元中継方式による会場内全員参加型ディスカッション

3 参考

『しおかぜの集い』開催のため、特定失踪者ご家族有志による『しおかぜの集い』実行委員会(1 5 名) が組織され、準備を行っている。

[調査会 NEWS 562](19.10.2)

「しおかぜ支援」フリーマーケット（家電品、引き出物等ご協力をお願いします）

既にお知らせしていますが、10月14日（日曜）練馬区光が丘公園で開催されるフリーマーケットに参加いたします。現在販売するものを集めております。特に家電品や押し入れに眠っている引出物のような品物は歓迎です。各位のご協力をお願い申し上げます。

出店者は短波放送しおかぜに以前からボランティアで応援をしていただいていた方です。フリーマーケットの売上金はすべて調査会へ寄付され、当日は調査会役員も参加します。また、可能なご家族は販売に参加いただいても結構です。どうぞご協力の程、お願い申し上げます。

日 時：平成 19 年 10 月 14 日（日）（雨天中止当日朝 9 時決定）

時 間：10:00 ~ 15:00（準備開始 8:00 より）

場 所：東京都立光が丘公園（区立図書館と管理所の間のけやき広場。噴水の下流です。）

〒 179-0072 練馬区光が丘 4-1-1

開催団体：NPO 法人フリーマーケット主催団体協議会

交 通

東武東上線「成増」下車 徒歩 15 分

営団地下鉄有楽町線「営団成増」下車 徒歩 13 分

都営地下鉄大江戸線「光が丘」下車 徒歩 5 分

JR 中央線「吉祥寺」より西武バス 光が丘三丁目行（約 1 時間）「公園北」下車

ご連絡・お問い合わせは、調査会までお願いします（担当：村尾）

[調査会 NEWS 563](19.10.17)

フリーマーケットご協力御礼

前号ニュースでお知らせしたように去る 10 月 14 日に東京練馬区の光が丘公園でのフリーマーケットに参加しました。お陰様で 64,920 円を売り上げることができました。ご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

定例記者会見のお知らせ

今回の定例記者会見は下記の通り行います。報道関係各位にはご多忙中恐縮ですが、ご対応賜りますようお願い申し上げます。

1、日時 10月31日(水) 14:00～

2、場所 調査会事務所(3F)

3、内容

- ・矢倉富康さんの告発について(当日地元米子で刑事告発が行われる予定です。地元は地元で会見を行います。定例会見ではこれに加えて問題になっている写真に関連する追加の報告も行う予定です)
- ・「しおかぜの集い」(12月16日)について
- ・短波放送「しおかぜ」について
- ・他

4、備考

通常と同様(株)NetLiveのご協力によりインターネットで中継を行います。NetLiveのホームページ(<http://www.netlive.ne.jp/>)からご覧下さい。

戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所の次回講演会は次の日程で実施されます。

1、日時 11月16日(金) 19:00～21:00

(講師の勤務の状況によって若干遅れて始まる可能性がありますので予めご了承下さい)

前半約1時間の講演を(株)NetLiveのご協力によりインターネットで生中継します。

2、場所 調査会事務所3F(文京区後楽2-3-8 第6松屋ビル)

3、講師 家村 和幸氏

陸上自衛隊2等陸佐(現職)・元陸自幹部学校戦術教官

・別冊宝島『真実の「日本戦史」』監修者

4、テーマ「戦略・戦術的思考とは何か」

ご参加の方は『真実の「日本戦史」』に事前に目を通していただくと幸いです。

5、会費 2000 円（戦略情報研究所会員は無料）

6、参加申し込み

今回は会場が狭いので定員 20 名で実施します。事前に電話（03-5684-5096）、ファックス（03-5684-5059）ないしメール（このメールへの返信で結構です）でお申し込み下さい（お名前とご連絡先電話番号をお知らせ下さい）。定員ぎりぎりの時点で会員の方と非会員の方が同時に申し込まれた場合は会員の方を優先しますので漏れた方は(株)NetLive の中継でご覧下さい。

なお、今回は講師の緊急の用件により直前に日程が変更になる可能性があります。その場合は個別にご連絡しますので、お申し込みの際は必ず電話番号をお知らせ願います。

[調査会 NEWS 564] (19.10.23)

短波放送「しおかぜ」全放送を日本から送信へ

調査会の北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」はこれまで朝の 30 分間の放送を日本から、夜の 30 分間の放送を英国の放送配信会社を通して第 3 国の送信所から送っていましたが、来る 10 月 28 日夜の放送からすべての放送を茨城県の K D D I 八俣送信所から発信することになりました。

電波に変わりがあるわけではありませんが、拉致被害者を取り返すための放送がすべて行えるようになったということは、直接アクセスへ向けて一步前進したと言えるでしょう。今後私たちはバルーンプロジェクトなども含め北朝鮮にさらに効果的かつ大量の情報を流していけるよう、努力して参ります。各位のご支援とご協力をあらためてお願い申し上げます。

放送時間と周波数は以下の通りです。

朝 5 時 30 分から 6 時まで 周波数 5965 キロヘルツ (10 月 29 日から)

夜 23 時から 23 時 30 分まで 周波数 5985 キロヘルツ (10 月 28 日から)

安明進氏の釈放

荒木和博

すでにニュースでも記者会見の報道がされていますが、19 日に安氏はソウル高裁で執行猶予つきの判決を受けて釈放されました。昨日本人からも電話をもらいましたが、「日本の皆さんに感謝しています」と何度も繰り返していました。別に私は何か特別なことをしたというわけでもなく、逆に負担をかけてしまった一人なのですが、とにかく声を聞いてほっとしました。

これからも彼にとっては茨の道でしょうが、もとより北朝鮮で職員として選抜され厳しい訓練を受け、命をかけて脱出して北朝鮮の民主化のために闘うという波乱の人生を送っている彼のこと。くじけることなく拉致被害者救出のため、そして北朝鮮の民衆のために闘ってもらいたいと思います。私も可能な協力はするつもりですし、過大な負担にならない範囲で一緒に活動してもらいたいと思っています。

[調査会 NEWS 565] (19.10.26)

総理の家族会との面会について

荒木和博

今日午後7時から福田康夫総理が家族会の皆さんと面会されるとのことです。それ自体はもちろん結構なのですが、今回特定失踪者に関する配慮は全くなされないようで、私たちに對する事前の説明も呼びかけも一切ありませんでした。古川了子さんの拉致認定を求める訴訟のとき、被告である政府側は「未認定者を差別してはいない」という趣旨の発言を繰り返してきましたが、結局口だけだったということになります。

ところで、昨日は高村外相が記者会見で「(拉致被害者が)何人かでも帰国すれば進展であることは間違いない」「進展の度合いに応じて日朝関係の改善のために我々も行動を取っていくのは当然このことだ」「北朝鮮がすべてについて説明責任を明らかにし、生存者全員が帰国すれば、(拉致問題は)大部分が解決したということだ。真相究明や首謀者の糾弾は当然求めていくが、一番大きいのは生存者が全部帰国することだ」と語っています。

政府はたびたび(安倍政権当時も)「生存者全員の帰国」を強調しているのですが、この言葉にはレトリックがあります。「生存者全員が帰国」というのはそもそもどうやって確認するのかということです。

北朝鮮は政府認定者で未帰還の人の大部分が死亡していると言っています。たとえば、その内の何人かを「実は生きていました」と言って返してきたとしても「やはりこの人は死んでいました」という人はどうするのか。あるいは原敕晁さんや久米裕さんの事件で関係者が捕まっていなければ拉致自体が分からなかったような、人間関係の希薄な人を狙って拉致した場合、拉致が成功していれば、政府認定どころか、特定失踪者のリストにすら入っていない可能性があります。このような拉致被害者の場合、北朝鮮側が出してこない限り分かりません。もちろん、今の金正日体制がそんな「過剰サービス」をするはずもなく、「生存者全員の帰国」というのは、北朝鮮の体制を変えない限り絶対に実現できないことです。その点は総理のみならず、マスコミの皆さんも、国民の皆さんも十分に理解していただきたいと思います。

同様に「何人かの帰国で進展」というのは、本来外務大臣が言うべき言葉ではないと思います。拉致被害者の救出というのは会社と労働組合の賃金交渉ではないのです。いくらベースアップするかではない。工場で事故があって、何人かが危険な状態になれば、会社も組合もなく救出に全力を尽くすでしょう。どちらかと言えばそういう事態ではないでしょうか。外相が分からないで言っているのか、あるいは意図的にそう言っているのか分かりませんが、しっかりと本質を認識してもらいたいと切に希望します。

また、寺越昭二さん、外雄さん以外にも、あまり想像したくはないですが、拉致の過程

ないし拉致されてから亡くなった方も当然おられると思います。私たちはやがてその重い現実に向き合わなければなりません。それらの方について、「亡くなっていました」で済ませることができるのか。拉致をした側の責任、そして防げなかった政府の責任は当然存在します。

「生存者全員が帰国」という言葉の裏にはその責任を回避しようという意図があることを絶対に忘れてはならないと思います。

さて、総理は今日、家族会の皆さんにどう説明するのでしょうか。

[調査会 NEWS 567](19.10.30)

明日の定例記者会見について

すでにお知らせしている通り、明日 14:00 より調査会事務所 3 F にて定例の記者会見を行います。

内容は以下の通りです。

- 1、北朝鮮に在留したタイ人女性の日本人目撃証言について
(特定失踪者木村かほるさんのお姉さんである天内みどりさん参加)
- 2、慎範アナウンサーの声の問題について
- 3、短波放送「しおかぜ」の全放送の国内からの送信開始について
- 4、「しおかぜの集い」(12月16日)の概要について
- 5、その他

なお、1 に関し天内さんは記者会見終了後 15:30 に内閣府に赴き要請を行う予定です。従来と同様(株)NetLive のご協力でインターネットによる生中継を行います。

(<http://www.netlive.ne.jp/>)

寺越事件に関する質問主意書

以下は特定失踪者リストの方ではありませんが、寺越事件(寺越昭二さん、外雄さん、武志さん)に関し西村真悟衆議院議員(拉致議連幹事長)が提出した質問主意書です。寺越事件の3人は特定失踪者と政府認定者の間に位置する、いわゆる「救う会認定」者ですが、政府認定の問題にも関係することですので、私たちとしても答弁書がどのような内容になるか、注目しています。

寺越昭二、寺越外雄そして寺越武志の拉致認定に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

平成十九年十月二十六日

提出者 西村真悟

衆議院議長 河野洋平 殿

寺越昭二、寺越外雄そして寺越武志の拉致認定に関する質問主意書

寺越昭二、寺越外雄そして寺越武志の三人は、昭和三十八年五月十一日、日本海に同じ船に乗って漁にでて帰らず、破損した船だけが発見されたので、遭難したとされていたところ、失踪から二十四年後の昭和六十二年一月二十二日、寺越外雄から日本にいる姉に、

北朝鮮で生活しているという手紙が届き、失踪当時十三歳の寺越武志も北朝鮮に居ることが判明したのであるが、失踪当時、彼等に日本海上で自分達の船を離れて北朝鮮に渡航する意志も手段もあろうはずはないので、その時彼等は、北朝鮮に日本海上で拉致されたと考えるのが合理的である。

しかるに、政府は、未だに寺越昭二ら三人を拉致被害者と認定せず、その根拠を、北朝鮮に居住する寺越武志自身が拉致されたと明言していないということに求めているようであるが、これは自由な発言が許されない北朝鮮の実状を無視した理屈といわざるを得ず、拉致被害者救出を使命とする政府のとるべき態度ではない。

何故なら、寺越武志のように拉致被害者本人が拉致されたと明言しないことを以って政府が拉致被害者と認定しないのであれば、五年前に帰国できた蓮池薫等拉致被害者五名も北朝鮮においては拉致されたと明言しなかったのであるから彼等も拉致被害者ではなかったことになり、現在北朝鮮に居る他の全ての拉致被害者がある日記者会見をさせられて拉致を否定すれば、もはや拉致被害者は存在せず、政府は、「拉致問題は解決済み」という北朝鮮の主張を受け入れざるを得なくなるからである。そして、この事態は、政府による拉致被害者の切り捨て、つまり救出の放棄を意味する。

よって、寺越事件は全拉致被害者救出の成否を左右する重要な課題であると位置づけられるので、その対策は、緊急を要すると考えられる。

従って、次の事項について質問する。

- 一、政府は、寺越昭二、寺越外雄および寺越武志（以下、右三名という）の、それぞれの現在の消息を如何に把握しているか回答されたい。
- 二、政府は、右三名を保護または救出すべき日本国民と考えているのか、回答されたい。
- 三、平成十四年四月十八日、参議院外交防衛委員会において、漆間巖警察庁警備局長（当時）は、「（認定以外の）拉致の可能性のある事案というのはいろいろつかんであるわけでございます」と答弁して認定以外の拉致事件があることを認め、平成十八年十月十六日、政府拉致問題対策本部が決めた「拉致問題における今後の対応方針」（以下、対応方針という）第五項に、「特定失踪者など拉致の可能性を排除し得ない事案の捜査・調査推進」とあるが、政府は、右三名を捜査・調査を推進すべき拉致の可能性のある事案と考えてきたのか、回答されたい。
- 四、平成十八年十二月十三日、拉致問題国際会議参加者らが招聘された政府主催のレセプションで、漆間警察庁長官（当時）は、寺越昭二の息子らに「（寺越昭二失踪事件は）拉致だと考えている」と話しているが、政府は右三名が北朝鮮に拉致されたと考えているのか、回答されたい。

五、北朝鮮は、寺越昭二が北朝鮮上陸後に病死したと主張しているが、亡命工作員安明進は、寺越昭二は海上の拉致現場で抵抗したため北朝鮮工作員により射殺されたと証言している。

寺越昭二の家族は、北朝鮮が言うように同人が北朝鮮で病死したのなら遺骨があるはずだから家族に遺骨を返せと求めているが、北朝鮮は真新しい墓の写真や墓の土などを渡すのみで遺骨を返していない。このことから、寺越昭二が北朝鮮工作員によって射殺された疑いが大きくなっている。

政府は、寺越昭二が北朝鮮工作員によって射殺された疑いをもっているのか、回答されたい。

六、政府は、対応方針第一項で、「全ての拉致被害者の安全確保と即時帰国、真相究明、実行犯引渡し」を北朝鮮に要求している。

政府は、ここでいう真相究明には右三名の事案の真相究明も含まれると考えているのか、回答されたい。

七、政府は、北朝鮮との外交交渉の中で、右三名の事案を如何に扱ってきたか、回答されたい。

八、政府は、「拉致問題の解決なしに北朝鮮との国交正常化はしない」という原則を掲げて、「全ての拉致被害者の安全確保と即時帰国、真相究明、実行犯引渡し」を求めているが、右三名の事案と寺越昭二殺人容疑に関して真相究明と実行犯引渡しがなされることが北朝鮮との国交正常化の条件と考えているのか、回答されたい

右質問する。

[調査会 NEWS 568](19.10.31)

矢倉さんに関する告発/記者会見追加

先程お送りしたニュース 568 号で記者会見の内容に関し矢倉富康さん拉致に関わる刑事告発の件が抜けておりました。

矢倉さんについては 31 日午前 9 時に米子警察署に告発状を提出、10 時から市役所の記者クラブで記者会見を行います。記者会見の参加者は矢倉三夫さん(矢倉富康さんの父)、代理人である安田壽朗弁護士、妹原仁調査会常務理事・岡田和典調査会常務理事です。告発の文書は米子での記者会見の折コピーを配布します。

また、東京で 14 時から行う記者会見でも告発についての報告を行います。

[調査会 NEWS 569](19.10.31)

本日の記者会見での発表文をそのままお知らせします。長くなりますがご了承下さい。なお、携帯などで全文ご覧になれない方のために荒木のブログにも掲載してあります。

(<http://araki.way-nifty.com/araki/>)

内容は次の通りです。

木村かほるさんと思われる「タイ人女性の日本語教師」についての報告と要請

本で行われた矢倉富康さんの拉致に関わる刑事告発の告発状

慎範アナウンサーの声の問題について

「しおかぜ」第2放送、国内送信へ切り替えについて

「しおかぜの集い」実行委員会開催結果について

木村かほるさんと思われる女性について

内閣官房拉致問題対策本部 御中
平成 19 年 10 月 31 日

木村かほるさんと思われる「タイ人女性の日本語教師」についての報告と要請

特定失踪者問題調査会

10月1日の記者会見で、特定失踪者問題調査会が発表したように、1982年7月にタイから北朝鮮に騙されて連れて行かれ、その後の1982年2月、タイに帰国を果たしたタイ人女性たちより、北朝鮮における彼女たちの「日本語教師」は、日本人である可能性があり、しかも、特定失踪者の木村かほるさんか、荒井セツさんに似ているとの証言を得た。

調査会は、今回のタイにおける調査(10月25日より27日)で、タイ人女性の四人と面会を行った。そのうち三人から別々に証言を受けた。三人のうち二人は、前回に証言をした人たちである。今回は、前回と異なり、多くの特定失踪者の写真と木村かほるさん、荒井セツさんの別の写真を照合してもらった上で、新たに詳細な証言を得た。

その結果、三人の女性は、いずれも特定失踪者の写真のうち「木村かほるさんが、最も似ている」と指摘した。

また、三人のいずれの証言でも「日本語教師」の人物像は、木村かほるさんとほぼ一致し、矛盾点はない。唯一、異なるのが「日本語の教師はメガネをしていた」という点だが、木村かほるさんの家系の状況や、本人の加齢を考慮しても、別人であるという証明にはならない。

以上のことから、今回の証言だけでは断定はできないものの、タイ人女性に日本語を教えた女性は、木村かほるさんの可能性が高いと判断できる。

尚、荒井セツさんである可能性については、今回、三人のタイ人女性に新たな別の荒井セツさんの写真をみせたところ、いずれも「似ているが、木村かほるさんの方が似ている」と証言をし、人物像についても類似性が少ないことから、可能性は低いと判断する。

ついでに、日本政府においては、木村かほるさんの失踪について、これまで以上に失踪の真相究明を鋭意行い、拉致被害者である可能性が高い失踪者であることから、北朝鮮当局に対して、強く帰国を求めることを要請する。

矢倉富康さんの拉致に関わる告発状

告 発 状

2007年10月31日

米子警察署
署長 大田 宜道 様

〒 683-0104 鳥取県米子市 (省略)
告 発 人 矢 倉 三 夫
〒 683-0104 鳥取県米子市 (省略)
告 発 人 矢 倉 節 子
〒 683-0067 鳥取県米子市東町 296 番地
電 話 0859 - 33 - 1019
F A X 0859 - 34 - 0029
安田法律事務所
告発人代理人弁護士 安 田 壽 朗

住所及び居所 不明
被告発人 某

第1 告発の趣旨

被告発人を刑法第 226 条（所在国外移送目的略取誘拐）の罪で捜査の上、厳重処罰することを求める。

第2 告発に関わる犯罪事実

被告発人は、国内外の協力者と共謀の上、1988（昭和 63）年 8 月 2 日頃、美保関と隠岐の島の間位置する日本海の海域付近において、当時 36 歳であった被告発人の長男である矢倉富康（昭和 26 年 11 月 28 日生）を国外移送目的を持って略取誘拐し、密かに日本から北朝鮮国内に移送し、現在に至っているものである。

第3 告発に至った事情

1、矢倉富康のプロフィール

矢倉富康（やくら・とみやす、以下「富康」とする）は、被告発人らの長男で、1951（昭和 26）年 11 月 28 日生まれの、失踪当時満 36 才である。富康は、鳥取県立境港水産高等学校を卒業し、米子市富益の日本精機株式会社（以下「日本精機」という）に工作機械製作技術者として勤務していたが、同社が倒産したために昭和 59 年に退職し、境港に漁船を有して漁業を営んでいた。その当時の住所地は鳥取県米子市大崎 2002 番地であり、被告発人らと同居していた。

2、北朝鮮工作員による拉致を示す事実

富康は、昭和 63 年 8 月 2 日失踪するに至ったものであるが、北朝鮮工作員らによる拉致である可能性が極めて高い。そのことを示す以下の事情がある。

(1) 失踪の状況が極めて不自然であること

富康は、昭和 63 年 8 月 2 日夕方 6 時、境港港から一人「一世丸（いっせいまる・4.9 トン）」で出港し、境港沖の日本海に漁にでかけた。富康は、美保関と隠岐島の間地点で操業し、翌 3 日午前 6 時に寄港する予定であったが、そのまま行方不明となった。海上保安庁と富康の所属する漁業組合全員が操業を中止して富康の操業海域を捜索したが全く手掛かりがなかった。海上保安庁では 5 日までの 3 日間、巡視船艇延べ 13 隻、航空機延べ 6 機により捜索を実施したが、一世丸及び富康さんの発見には至らなかった。ところが、8 月 10 日、哨戒中の巡視船が竹島の南南東 25°で漂流していた一世丸を発見した。しかし、富康は船内に見あたらなかった。そして、付近海上も捜索しましたが、なんら手がかりとなるものは発見できなかった。一方、一世丸を調査したところ、左舷前方に他の船と衝突し、かなり強い圧力を受けた痕跡（凹損と擦過痕）があり、その部位には青色の塗料が付着していた。このことから、海上保安庁は、他船による衝突を疑い、衝突相手船について捜索したが該当の船舶は発見できなかった。

ところで、不思議なことに富康の船が発見された竹島沖は操業予定であった美保関と

隠岐島の間地点からおよそ 200km 近く離れていた。発見当時一世丸は自動操舵となっており、オイルパイプの破損でエンジンが焼けつき航行不能の状態に漂流していた。一世丸が、このような状況で、操業予定の地点から発見地点へ自力で航行することは不可能であった。また、海流の状態に照らしてもこのような移動は考えられなかった。従って、一世丸は、何者かによって、海難事故を偽装するために美保関と隠岐島の間地点の海域から遙か 200?離れた竹島の南南東 25?まで曳航されたものとするべきである。

(2)富康には自殺や自発的失踪を行う状況は皆無であった

富康には自殺を疑わしめる状況は全く無かった。加えて、前述のように失踪の状況が極めて不自然であったこと、また前年に大韓航空機爆破事件が発生し北朝鮮の工作が世に知られる状況があった。このため、告発人らは、富康が北朝鮮関係者に拉致されたに違いないと考え始め、失踪宣告などの手続をとっていない。

(3)富康が北朝鮮が求めていた高い工作技術を持つ技術者であったこと

富康が北朝鮮にとって必要な技術者であり、北朝鮮がそのことを以前から認識していた可能性が高い。

富康は、失踪 3 年前までは、日本精機に工作機械製作技術者として勤務する精密工作機械製作の極めて優秀な技術者であった

日本精機は、昭和 59 年に倒産したが、かつて精密工作機械であるマシニングセンターの国内トップの企業であった。マシニングセンターは、100 分の 2 ミリの精度で鉄などを加工可能な工作機械としてミサイルなど兵器製造には必要不可欠であり、対共産圏への輸出規制品目の一つであった。

富康はこれを稼働させるためのパンチプログラミングから部品の製作・加工・組立・設置・メンテナンスまで幅広くこなせる優秀な技術者であった。このような技術者は、80 人の社員の内 3 人だけであったと言われている。そのため富康は、日本精機が海外に販売したマシニングセンターの設置や取り扱いについての指導のためにアジアをはじめ中近東・米国・欧州などに度々出張していた。韓国の『現代造船』にも半年単位で単身出張していたり、チェコスロバキア、オーストリア、ポーランドなどにも出張していた。

他方、北朝鮮は、ミサイルなどの兵器開発に全力を注いでおり、富康の出張先であった共産圏のチェコスロバキアやポーランドなどから技術を導入していた可能性がある。また、富康が出張していた「現代造船所」は、「現代」グループの中心企業のひとつであり、韓国軍需関連企業とし北朝鮮工作員のターゲットであった。このようなことから、北朝鮮がかなり早い時期から高い技術を持つ富康さんの存在を知り、拉致の対象者として着目していた可能性がある。

(4)北朝鮮によるココム違反が頻繁に繰り返されていた時期であること

前述のとおり、北朝鮮は、軍事兵器開発の必要性から、軍事転用可能な技術や製品の輸入に執着していた。このような事情を背景にして北朝鮮は、富康失踪当時、以下の

対共産圏輸出調整委員会(ココム)規制違反事件に関与していた。

ア、ヤマニ水産社長高橋房男外ココム規制違反疑惑事件(昭和62年6月)

昭和62年6月、青森県八戸市のヤマニ水産社長高橋房男と三重県度会郡南島町阿曾浦、元第八大聖丸船長橋本豊の2人が、北朝鮮に不法出国。出入国管理令違反などで検挙されたが、水中音波探知機などの先端技術製品をココム規制に違反して北朝鮮に輸出していた疑いが生じた(1987年6月21日 山陰中央新報)。

イ、朴日好ココム規制違反事件(昭和62年5月)

大阪市東区の貿易会社「東明商事」社長杉本日好こと朴日好社長は、ココム規制品目の日本製IC(集積回路)やオシロスコープを北朝鮮に不正輸出し、静岡県警に検挙された(1987年5月19日 山陰中央新報)。

ウ、朝鮮総連傘下団体幹部によるココム違反事件(昭和63年9月)

在日本朝鮮人商工連合会幹部K(63)は、通商産業大臣の承認を受けず、衣類、日用品と偽ってココム規制対象品であるパソコン等を、朝鮮総連の関係事務所を經由して、63年9月5日、新潟港を出港する北朝鮮貨客船三池淵号でひそかに北朝鮮へ送り込もうとした。新潟県警察は、9月27日、外為法及び関税法違反で関係箇所の捜索を実施し、平成元年2月7日、外為法及び関税法違反でKを検挙した。Kはこの件で新潟簡裁により罰金20万円の判決を言い渡された。

このようなココム違反事件に見られるように、北朝鮮は、軍事兵器開発に異常な執念を燃やしており、当然のことながら、そのために活用できる技術者を欲していたことは容易に想像できる。

(5)富雄の居住地が、北朝鮮との交流が頻繁に行われ、かつ松本京子や古都瑞子の拉致現場と同じ鳥取県米子市であること。

富雄が居住していた鳥取県米子市周辺は、拉致銀座とも称すべき地域である。そして、過去、松本京子(昭和52年10月)や古都瑞子(昭和52年10月)らの拉致事件が発生している。この地域は、境港港を擁し北朝鮮との交流の日本海側の拠点の一つであり、また北朝鮮の重要な工作活動の拠点の一つと考えられている。北朝鮮工作員にとって、境港市から米子市にかけては、十分な土地勘が働く地域であり、仮に富康を拉致のターゲットにしようとした場合、土地勘がはたらき、その動向を把握するのは極めて容易である。

(6)過去日本海域及びその周辺が舞台となって北朝鮮の工作活動が頻繁に展開されてきた歴史があること

富雄が操業を予定していた海域および船が発見された海域は北朝鮮の工作活動が頻繁

に展開されてきた歴史がある。また、北朝鮮工作船と見られる不審船が日常的に出没している状況がある。

ちなみに、これまで以下のような北朝鮮による工作が判明しており、富康の失踪の原因が北朝鮮の工作員によるものであることを示唆している。

- ア、1959年9月29日、兵庫県美方郡浜坂町で密入国し活動していた金俊英（日本名川上崇弘）が、浜坂海岸で帰国のため工作船を待っていたところを逮捕された（浜坂事件）。
- イ、1962年10月16日、兵庫県美方郡香住町余部海岸から朴基華が潜入するという事件が発生した。
- ウ、1970年4月14日、巡視船が兵庫县城崎郡竹野町切浜沖約500mにて無灯火の不審船を発見、追跡中の巡視船「あさぎり」に対し銃撃、追跡するも停船させるに至らなかったという事件が発生した。
- エ、1974年9月19日、兵庫县城崎郡竹野町切浜海岸（弁天浜の隣接地）で北朝鮮工作員、威国上及び李庸煥の両名が逮捕されるという事件が発生した（切浜事件）。
- オ、1977年10月17日、島根県江津市北約15kmの地点に不審船が東に向け航行中との通報により、海上保安部「やなかぜ」が出動し、同県簸川郡大社町日御碕沖で発見、巡視船艇により追跡するも振り切り逃走するという事件が発生した。この船は漁船型で、まもなく北朝鮮の工作船「長久丸」と判明した。
- カ、1977年10月の松本京子の失踪の際には、境港沖に北朝鮮工作船と疑わしき不審船が存在していたことが確認された。
- キ、1980年6月11日、巡視船が、兵庫县城崎郡香住町余部埼沖約12.5海里（約23km）にて白灯を点じた漁船型の不審船、及び余部埼沖約9.4海里（約17km）にて無灯火小型船を発見した。巡視船艇、航空機が追跡するも、当該不審船はレーダー映像上で無灯火小型船と重なった後、逃走するという事件が発生した。
- ク、同年6月12日、同町香住海岸で工作船を待機中の李基吾と黄博が逮捕されるという事件が発生した（磯の松島事件）。
- ケ、1990年10月、福井県三方郡美浜町の松原海岸に船籍及び船名不明の小船が漂着し、同漂着船の形状に加え、装備品、乱数表、換字表等の遺留品の状況から、北朝鮮工作員が潜入・脱出のために使用される北朝鮮工作船の子船であることが判明するという事実が明るみに出た。

第4 告発に至った理由

- 1、富康の家族である告発人らは、富康の失踪は北朝鮮に拉致されたものとして、失踪宣告を行わず帰還を待っていた。しかし、その所在はつかめないまま時間が過ぎ今日に至った。
- 2、その後、北朝鮮による拉致問題が社会の注目を集める中で、富康と同じ米子市に居住していた松本京子が政府によって拉致認定され、また古都瑞子の家族が告発に踏み切ったことを知った。
- 3、このような中で、告発人らは、富康の失踪が北朝鮮職員による拉致であるとの確信を益々強めるに至った。
- 4、なお、富康の北朝鮮における生存はその可能性が高いものと思われる。一方、拉致からまもなく20年になろうとしており、告発人らも高齢化しており、その救出は一刻の猶予もならない状況である。

第5 結語

特定失踪者問題調査会へ家族から拉致の疑いがあるとして情報が寄せられた失踪者約500人、その内本人が日本国内にいることが確認できたのは20名（うち1人死亡）、約4%に過ぎず、大多数はその行方について新たな情報すら寄せられていない。2006年（平成18年）11月に日本政府により拉致認定された松本京子について言えば、当初、日本政府は、金子善次郎衆議院議員の松本京子拉致疑惑を質した質問主意書に対して、2000年（平成12年）12月5日付で答弁書を提出し、「所要の調査を実施したが、北朝鮮に拉致されたと疑わせる状況等はなかったものと承知している」と回答したものの、6年後に至って、一転して同女を北朝鮮による拉致被害者と認定した。このように、拉致問題の真相は未だに深いベールにつつまれており、問題の根深さを物語っている。

現在、北朝鮮職員によって長期的かつ広範囲に多くの日本国民が拉致されたことがますます明らかになりつつある。このことから考えると、北朝鮮による拉致はテロというよりある種の戦争ともいえる状況である。おそらくはこの現状を当初から認識していたであろうわが国政府が、なぜこのような大規模かつ悪質な人権侵害を放置してきたのか、その政治的な意図を含め未だ不明であるが、今やこのような状況を一刻も放置し続けることは許されない。また、日本国民のみならず、2007年（平成19年）4月に警察庁が拉致と断定した高敬美、剛兄弟のような朝鮮籍を含め相当数の在日韓国・朝鮮人もいわゆる「帰国事業」とは別に拉致をされている可能性があり、政府はこの問題も含めて事件全体の調査と原因解明そして失踪者及びその家族の被害回復に全力をもって取り組むべきである。

とりわけ、警察当局は、多くの失踪者について北朝鮮職員による拉致を疑い、失踪時において速やかに捜査に着手すべきであったにもかかわらず、失踪事件のほとんど全てにおいて拉致を疑わず、その結果時の経過と共に、証拠の散逸と劣化を許し、事

件の全体像に対する解明と被害救済の機会を逸してしまっている。本件は、数多い失踪事件の中であってとりわけ拉致が強く疑われる事件であり、警察当局がこれまでの反省の上に立って直ちに立件し、速やかに捜査に着手すべきである。

よって、本件告発をなすものである。

添付書類

1、委任状	2通
2、改製原戸籍謄本	1通
3、写真	1葉
4、パスポート	1冊
3、新聞記事コピー	1通

以上

平成 19 年 10 月 31 日 朝鮮中央放送委員会・慎範アナウンサーの声の問題について
特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

去る 10 月 1 日の記者会見で発表したように、3 月 15 日に平壤高麗ホテルで撮影された写真に写っていた人物は特定失踪者矢倉富康氏に極めて良く似た在日朝鮮人帰国者・慎範氏である可能性が高い。しかし一方で、慎範アナウンサーの放送の声と帰国者慎範氏の親族（弟）の声、矢倉富康さんの親族（父及び叔父）の声を比較したところ、声帯音及びアクセントの比較では帰国者慎範氏の親族より矢倉富康さんの親族の方がより共通点が多いことが明らかになった。

東京大学先端科学技術研究センター客員研究員である村岡輝雄博士は、1 日の会見で発表したように「(矢倉さんの親族) 3 人に差はあるが、どれもアナウンサーと似た声のグループに入る。断定することはできないが親族関係がある可能性は存在する。慎範氏の親族の声については、矢倉さんの親族と比較して、アナウンサーの声には似ていない」とのこと。

また言語学が専門の佐藤亮一・前東京女子大教授は次のように分析している。
「(慎範アナウンサー及び帰国者慎範氏の親族の) 音声はどちらも破裂の強い非鼻濁音の [g] であることは共通している。しかも、帰国者慎範氏の親族の声の方が破裂がより強いように感じられる。一方、慎範アナウンサーに見られる複合名詞の後半部分を卓立される特徴（東京アクセントらしからぬ特徴ではないかと感じたもの）は帰国者慎範氏の親族の音声には認められない。

先日（荒木が佐藤先生に慎範アナウンサーと矢倉さんの親族の声を聞いていただいたと

き) [g]音の破裂の強さが、東京生まれ育ちの人にはあまり見られない特徴ではないかと述べたが、調査したわけではないので、確証はない。ただし、矢倉さんの親族の音声が破裂の強い[g]であったことは確かである。そもそもガ行鼻音の音声は親の影響を受けやすい。在日朝鮮人のガ行鼻音がどのような音声であるかも検討しなければならない。アナウンサーの声と帰国者愼範氏の親族の音声が親族関係にあるかどうかは何とも言えない(似ているような気もするが)。アナウンサーの音声が矢倉富康さんであるかどうかについても、現段階では、否定も肯定もできない」

断定はできないものの、本件がもともと安倍政権中枢へのルートを作ることを目的として行われた工作である可能性は高く、またそこに、先日の南北首脳会談で金正日に同席していた金養建をトップにいただく労働党統一戦線部が関与している可能性も指摘されている。一方警察は写真について当初から合成写真の可能性を指摘しており、これも真偽の程は不明だが、合成なら合成で、単なる在日の帰国者の写真をこのような形で出すことは考えられない。そしてアナウンサーの声が帰国者愼範氏でないならば、写真の人物が特定失踪者矢倉富康さんと極めて良く似ていたのも偶然ではない可能性が出てくる。

いずれにしても真相の究明をしなければならない。そして、そのためには調査会関係者が直接平壤を訪れ愼範アナウンサー及び中央放送委員会・統一戦線部関係者から事情聴取をする必要がある。北朝鮮当局に調査団の受け入れを求めるとともに、日本政府からも北朝鮮側に働きかけるよう要請するものである。

以上

しおかぜ第2放送、国内送信へ切り替えについて

特定失踪者問題調査会

これまで、イギリス(ロンドン)の放送配信委託会社であるVTコミュニケーションへ配信委託をしていた第2放送(22:00~22:30)を、10月28日より第1放送同様にKDDI(株)八俣送信所からの送信に切り替え、発信を開始しています。

今回の切り替えは、八俣送信所から発信する事で、これから冬期に向かうにあたって出来るだけ低い周波数が、伝搬上聴き取りやすくなること、さらに北朝鮮付近での伝播上および電波環境の改善、業務上日本とロンドンの時差によって生じていた不具合の解消、以前からお伝えしている通り、調査会の資金難により第1、第2を合わせて、月額約10万円程度の経費削減、そして最も重要なのは、日本国内からしおかぜを発信する事による北朝鮮へのさらなる圧力という点です。当然の事ながら、新たに第2放送を国内発信にするためにはNHK様、KDDI様の承諾が必要となりますが、両社共に前向きにご検討いただき実現することとなり、そのための免許書き替えの作業は8月初旬から開始し、10月23日に指定変更通知並びに無線局の免許を関東総合通信局より交付されました。

しおかぜは、現在まで約2年間放送して参りました。そしてその効果は確実に北朝鮮へ効いていると確信しています。他の対北朝鮮放送とも連携し、バルーンプロジェクトを初め今後あらゆる手段で北朝鮮国内へ大量の情報を注入して行くことが、拉致問題の解決へ向けて、多大な影響を与えると考える次第です。

識別信号：J S R（呼出符号）しおかぜ（呼出名称）

放送時間：5:30～6:00（10/29日より）

周波数：5965kHz

放送時間：23:00～23:30（10/28日より）

周波数：5985kHz

送信出力：100kW（2波共に）

契約期間：2008年3月30日まで

以上

「しおかぜの集い」実行委員会

平成19年10月31日

特定失踪者問題調査会

第3回『しおかぜの集い』実行委員会・開催結果について

1 概要

10月20日（土）調査会・3階会議室において第3回『しおかぜの集い』実行委員会が開催され、日程、イベント内容などについて討議し、それぞれの会場に関する実行委員長などの役員等、以下のような概要が決定した。なお、今回の集会は調査会として初めて開催する主催集会である。

2 内容

（1）日程及び時程

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日～16日）」最終日の12月16日（日曜日）とし、東京会場においては10:00から17:00までを開催時間とし、大阪会場においては、13:00から15:00までの間を開催時間とする（大阪会場の開催時間は会場の状況により若干変更になる可能性あり）。この間東京会場と大阪会場でインターネットによる二元中継を行いメイン・イベントとする。

（2）会場

ア 東京会場：陸上自衛隊・広報センター

イ 大阪会場：大阪市立中央青年センター

(3) サブ・タイトル

「かならず助ける！ すべての拉致被害者の早期救出を！」

(4) イベント内容

ア 東京会場

(ア) 写真パネルおよび資料展示（広報センター 1F、階段および 2F 会議室）

(イ) メイン・イベント（失踪者家族の訴え、来賓・家族を交えた質疑、要請文採択、しおかぜ公開収録）

要請文は「しおかぜの集い参加者一同」として採択し、後日政府に届ける。

(ウ) 失踪者家族と来賓・一般見学者等との交流・懇談会

イ 大阪会場

(ア) メイン・イベント（東京会場との二元中継による集会参加）

(イ) メイン・イベント終了後の単独集会

(5) 役員

ア 東京会場

(ア) 実行委員長：大澤昭一（大澤孝司さんの兄・全体の実行委員長を兼ねる。）

(イ) 事務局長：曾田英雄（調査会理事・全体の事務局長を兼ねる。）

(ウ) 実行委員（五十音順）

生島馨子（生島孝子さんの姉）・斉藤駿（斉藤宰さんの弟）・S（非公開者の兄）・鈴木 智（鈴木賢さんの兄）・高野美幸（高野清文さんの父）
・竹川朋子（岩佐寅雄さんの親戚）・竹下珠路（古川了子さんの姉）・松岡圭子（松岡伸矢さんの母）・宮本剛志（宮本直樹さんの兄）・森本美砂（山本美保さんの妹）

(エ) 担当役員：大阪会場担当調査会役員

イ 大阪会場

(ア) 実行委員長：秋田正一郎（秋田美輪さんの父）

(イ) 副委員長：中林葵（大阪ブルーリボンの会事務局長）

(ウ) 事務局長：三宅博（調査会・理事）

(エ) 実行委員：山下きよ子（山下貢さんの母）・山下寛久（山下春夫さんの兄）

(オ) 大阪会場担当調査会役員：岡田和典（常務理事）・杉野正治（常務理事）
・妹原仁（常務理事）

3 その他

事前の広報を行うため、早急にチラシ等の作成を行い、講演会、集会などの会場で配布・広報、PDF ファイルでのインターネット掲示等を行う。

11 月 28 日に調査会の定例会見を東京大阪同時 2 カ所で開催し、その模様を 2 元中継し、集い当日の試験を兼ねる。

以上